

発刊のことば

同志社大学アメリカ研究所がロックフェラー財団の援助資金によって発足して、すでに5年余。その間援助の指示に沿った活動即ち米国留学研究者の派遣と文献図書の蒐集が続けられ有意義な成果をみたのであった。

一方、同志社大学としても物的並に人的出資が積み重ねられて、昨今漸やく研究所としての体制が整いかけたといえよう。例えば学内外の研究者の研究会や内外専門家を講師とするインスティテュートの開催、時には公開講演会の主催等々。このように研究活動も軌道に乗りかけてくると、自己の存在主張が出来る機関誌の発行が、期せずして一つの念願となってくる。これは極く自然の発展の姿といえるものであろう。また考えてみれば、これは援助者の厚意に対するわれわれの当然の義務でもあるわけだ。

機関誌発刊のことが決定されてからも、かれこれ1年以上の時間が流れた。その企劃も二転、三転して、漸やく出来上がったのが、この形をとったものであり、当分年1回の発行を期している。ご覧の通りの極くささやかな機関誌ではあるがアメリカンスタディーズを主張する専門誌は、わが学界でも絶無ではないとしても、数少いものであろう。それだけにわれわれのこれに対する希望は大きいのである。

かえりみればこの研究所も大学の片隅で、臨時雇員1人、タイプライター1台の乏しい設備の中から出発したものであった。この機関誌も最初から完璧のレイアウトの下に出来たものではさらさらない。色々な点で不十分な条件の下に生れたものではある。然しわれわれはこれを早生児だとは思っていないのである。従ってこれを優良児に育て上げる覚悟と責任を感じている。これと共に必要なことは学内外の諸先生方の御愛顧、御援助であり、これなくしてはすくすくとした成長は望みえないのである。今日これが出版されるに至ったのも、多くの先生方の美しい犠牲と愛顧の賜である。それ等の方々に対し深い感謝の言葉を送りたい。

1963年8月

アメリカ研究所実行委員長 小 松 幸 雄